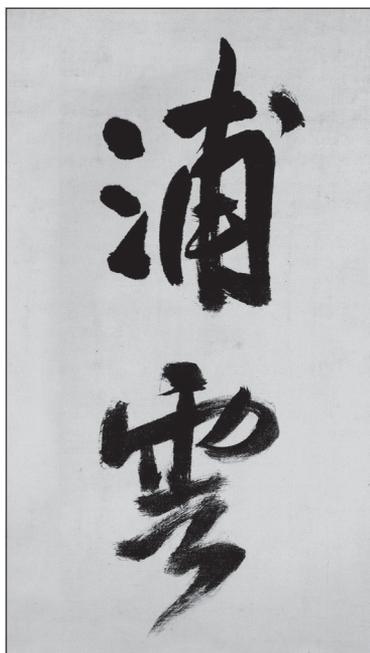


高橋香樹会長担当 半紙臨書課題

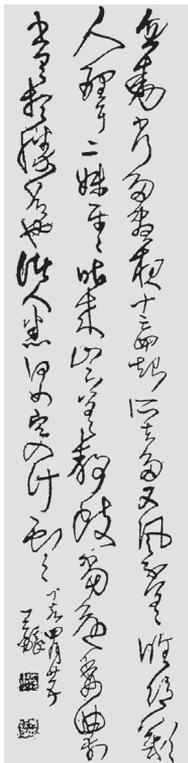
(4月22日締切) 出品料440円

王鐸(行書五律五首卷)

第二回
1、字句 浦雲



中国法書ガイド53『王鐸集』(二玄社)



①原帖



②文字形



③行の流れ

2、形式 半紙タテ使用。中央に「浦雲」と臨書し、左余白に落款○○臨と調和を工夫して書き入れる。

3、概観 王鐸の書は、今まで本格的に臨書したということはありません。しかし、創作する際、辞書で調べる時、王鐸の文字を選択することが多かったと思います。昔、王鐸の長条幅を見た時、文字形の多様さと行の流れに驚き、図版(左上)のように文字形を形取りました。私は、文字形は正方形・長方形が中心となっていてしましますが、王鐸の文字形を改めて見てみると、正方形・長方形はほとんどなく、不定形に書かれています。この不定形が図版②によってよくわかるかと思えます。これは、作品を制作する時のヒントになるかと思ひ掲載することになりました。

4、各字のポイント

浦 サンズイは、ほぼ等間隔か。縦画は皆右傾か。
雲 横画は角度・線質が微妙に変化している。

※王鐸の展示があります

〔東京国立博物館〕(東洋館8室)

明末清初の書画―乱世に見る夢―

後期 2月10日(火) ～ 3月22日(日)

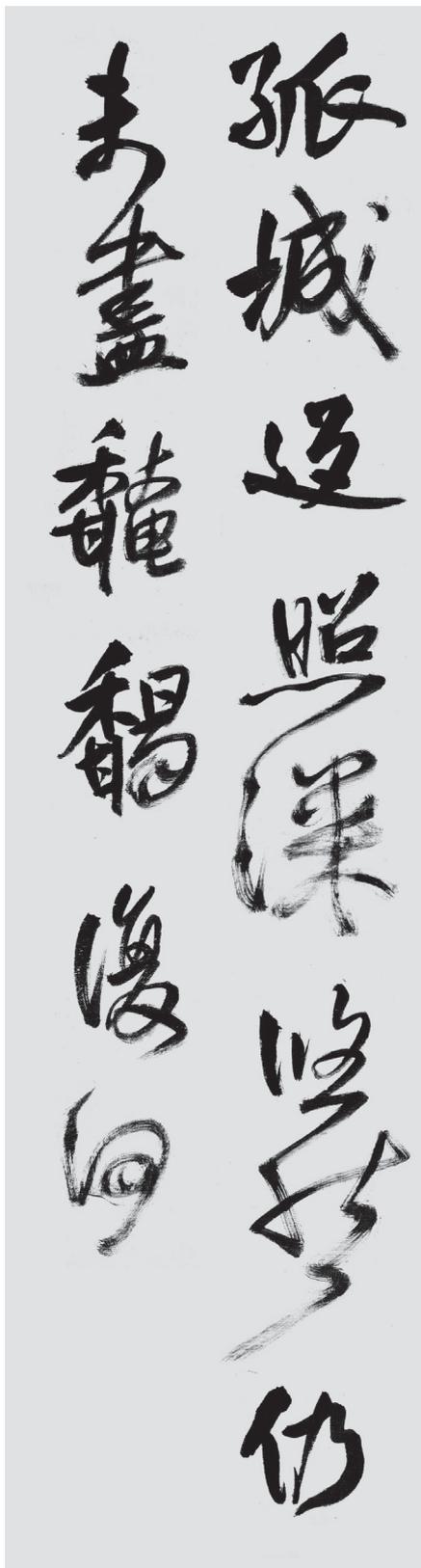
開館時間 9時30分～17時(入館16時30分まで)

観覧料 一般一、〇〇〇円 大学生五〇〇円 高校生以下 無料

※(休館日) 月曜日(祝日は除く)

詳細は書誌2月号P21

王鐸（明） 行書五律五首卷



条幅随意参考

孤城返照深 悠然仍未盡 醜醜復何
 孤城、返照深し。悠然、仍おもた尽くさず、醜醜、復た何にか

中国法書選『王鐸集』（二玄社）

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご活用下さい。字詰め自由。抜粋可。

一字書（四月二十二日締切）

課題

環

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
 一字と記入 段級は無記入

字典の紹介

（主に毛筆用）

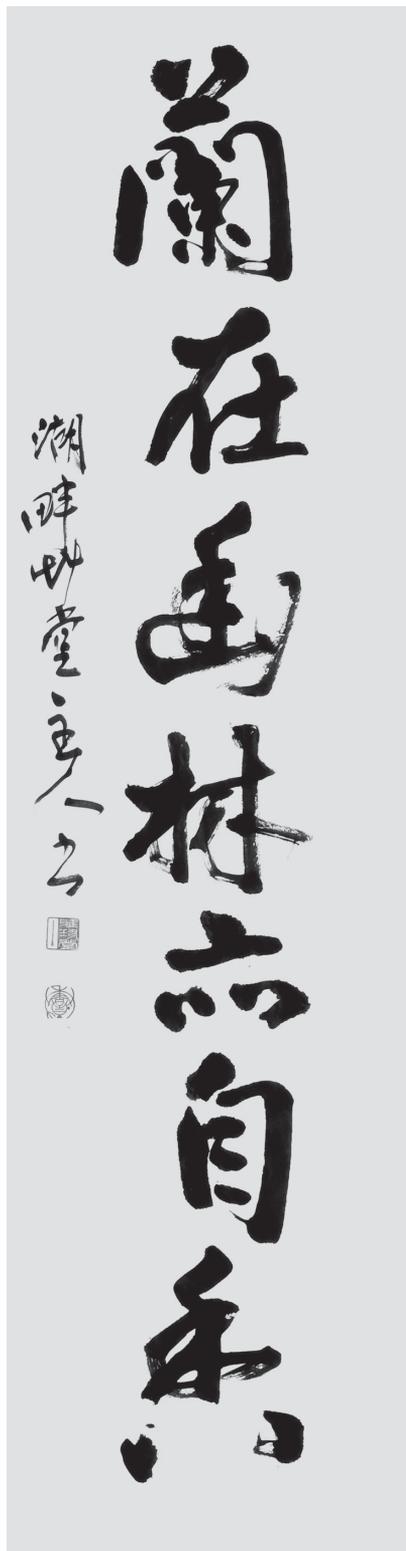
- 『新書源』 出版社 二玄社
 A5版 一四一六ページ
 定価 九、七九〇円（税込）
- 『五體字類』 増補改定版
 出版社 法帖図書出版 西東書房
 B6版 七六〇ページ
 定価 三、八五〇円（税込）

条幅部漢字課題参考

(四月二十二日締切)

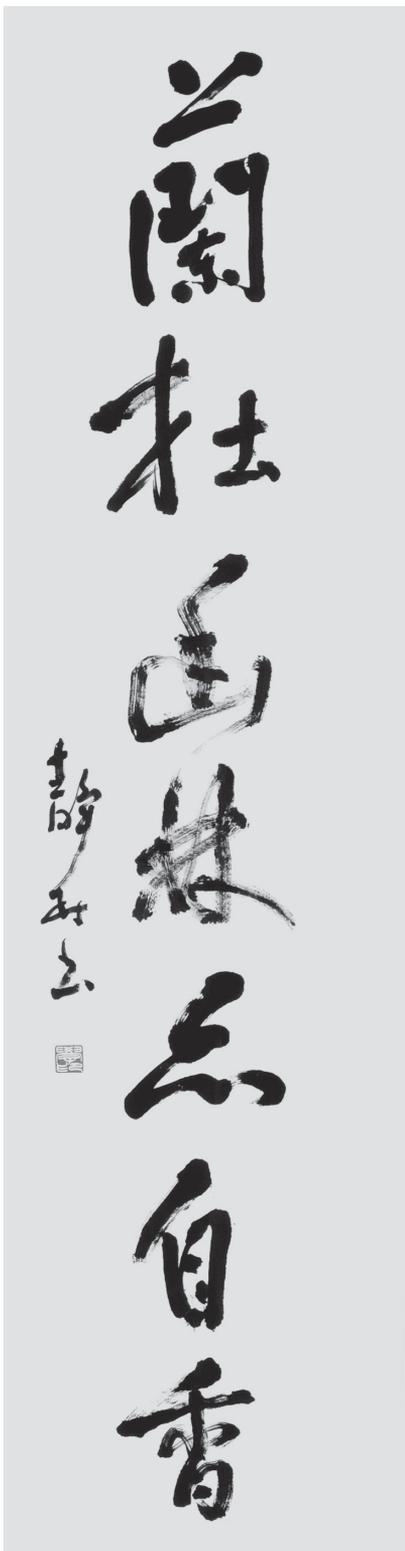
A 高橋香樹会長書

蘭在幽林亦自香(劉禹錫)
蘭は幽林に在りて亦た自ら香し。



B 鈴木静村先生書

今回の課題は七字。半切に七字を一行書きでは少し字数が多いかなと思つた。事実、普段半切に一行書きだと、四字・五字で書くことが多い。最初は七字入らなかつた。「蘭」が大きすぎたのだ。墨継ぎは「亦」一回とした。



特号大筆を使用。手足を伸ばし外向的に強く打ち出してほしい。若々しく「自分」を表出されたい。蘭 門構えをスッキリと。在 「ま」と「土」との全体を意識するとよい。幽林 渴筆部クネクネと弱くならぬように。香 特に「日」で全体を締める部分として注目したい。
訳：蘭の花は奥深い林にあっても、おのずと香り高い。

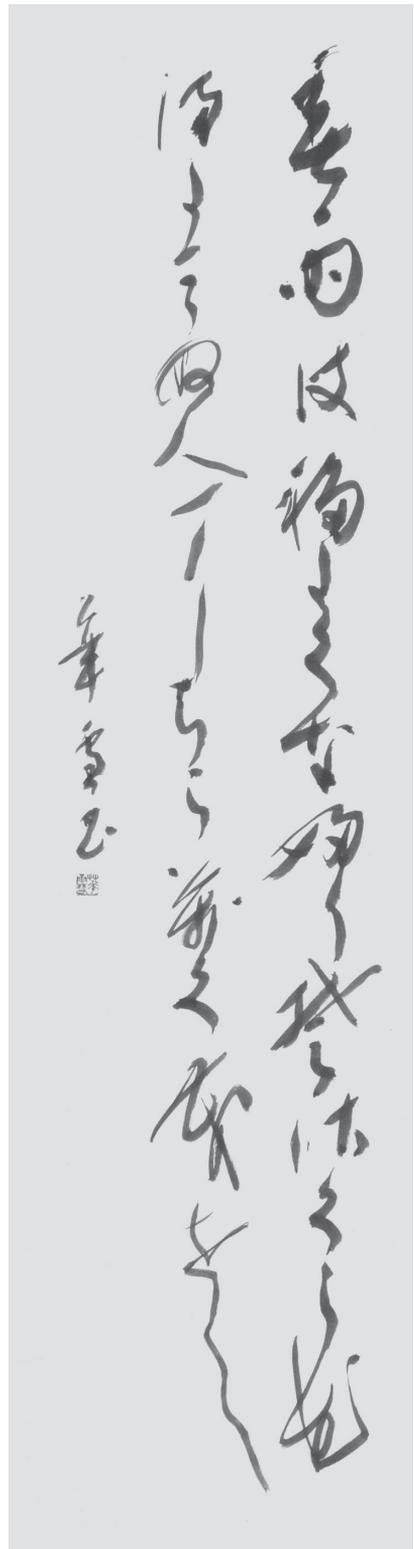
予告 (五月二十二日締切) 休道他郷多苦辛 同袍有友自相親(廣瀬淡窗)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部かな課題参考

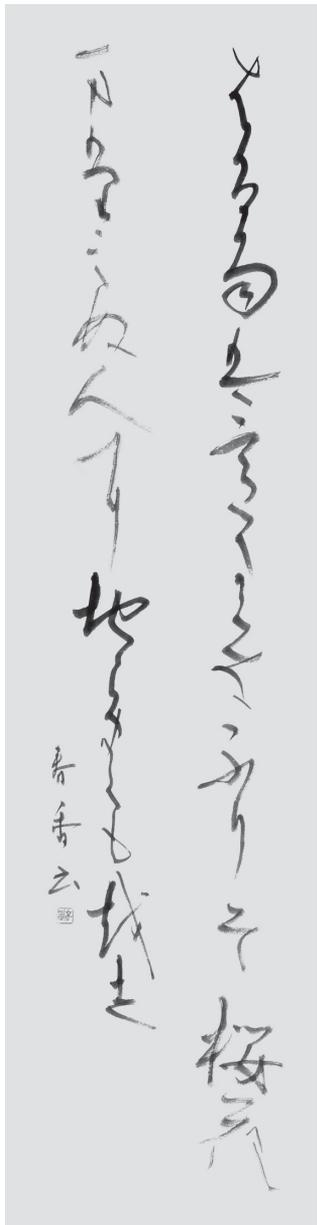
(四月二十二日締切)

A
平岡華雪先生書



春雨はいたくなふりそ桜花まだ見ぬ人にちらまくをし(新古今和歌集 山部赤人)
春雨は移多くな婦り楚佐久ら花満多三ぬ人耳ちら萬久茂をし

B
石原春香先生書



者る雨盤意多久奈ふりそ桜花万堂三ぬ人耳地ら末久も越志

山部赤人は、奈良初期の万葉歌人。三十六歌仙の一人。古来、柿本人麿と共に歌聖と称された。

歌は、自然を題材として謳われた優美で清澄な傑作が多い。その簡潔、清浄な歌風から、代表的自然詩人と言われている。有名な「田子の浦ゆ」の歌は、万葉集の原歌と新古今集にある歌との違いも注目される。

学び方

歌意：春の雨がひどく降るなあ。さくら花をまだ見ていない人の為に、花の散らむとするのも惜しまれる(雨よあまり降らないで)。
学び方 紙面の景色を連綿・疎密・潤濁を考えながら作品にしてみました。「意多く奈」はなめらかに「万堂三ぬ人耳」は連綿をさけ明るく。「者る雨」まで頑張って書く事で渴筆を。「地」で墨継ぎ。「万堂三ぬ人耳」が縦長なので「ち」は幅のある「地」を使用しました。最後の「し」は「志」で引き締めました。

予告 (五月二十二日締切)

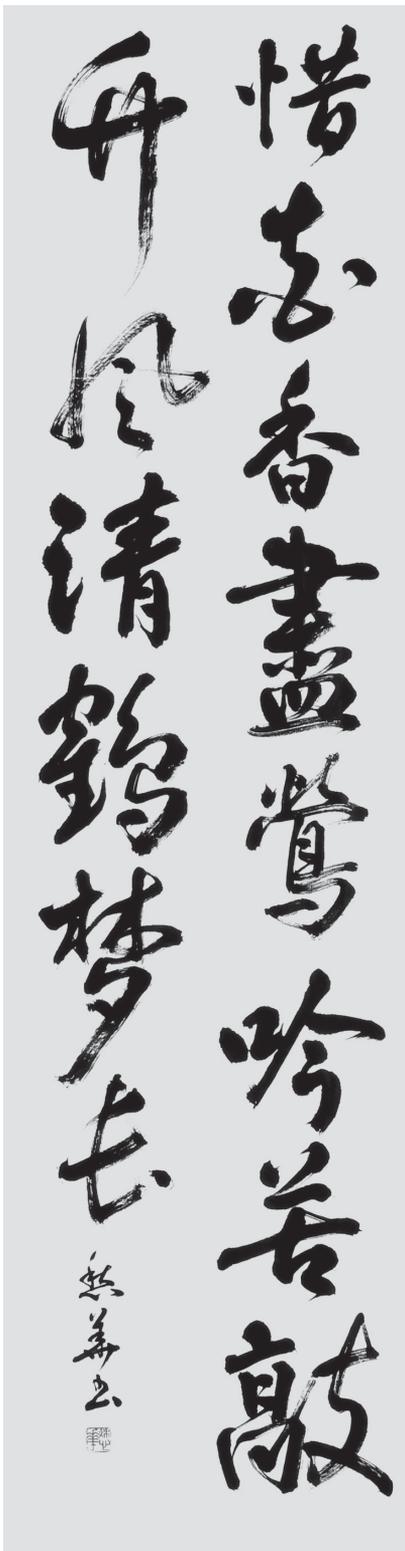
足引のやまほととぎすみいにて夜ふかき月の影に鳴くなり(金槐和歌集 源実朝)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部 随意参考

石田愁華先生書

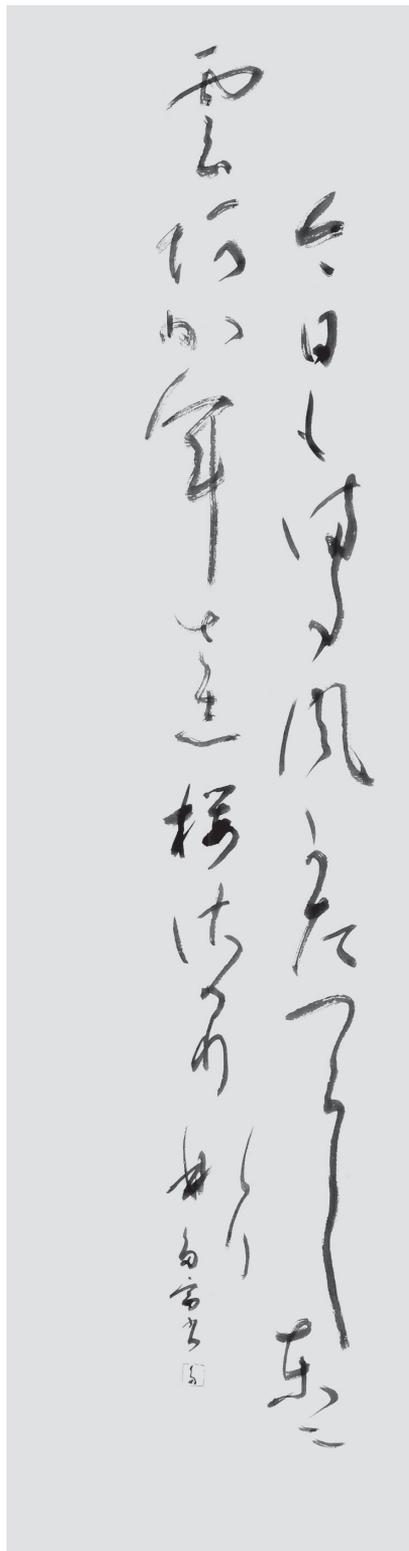
惜花香盡鶯吟苦 敲竹風清鶴夢長（吳惟信）
花を惜み香尽き鶯吟苦しく、竹を敲く風清く鶴夢長し。



訳：晩春に花を惜しんで焚く香は消え鶯の声も悲しく聞える。竹吹く風は清く鶴の結ぶ夢はおく深い。

森多富先生書

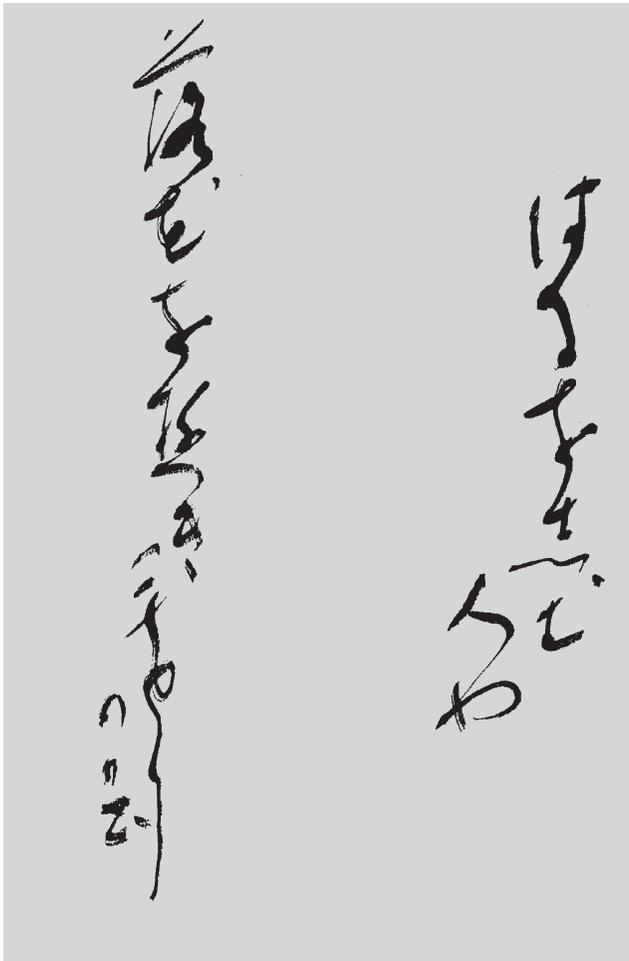
今日もまた風かたつらし 東に雲あかねさし桜さかりなり（若山牧水）
今日も満多風可たつらし東に雲阿か年さ志桜佐可利那り



歌意：きょうもまた風が立つのであろうか。東の空の雲は茜色を帯び、桜の花はいまをさかりと咲きしずもっている。

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
- ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

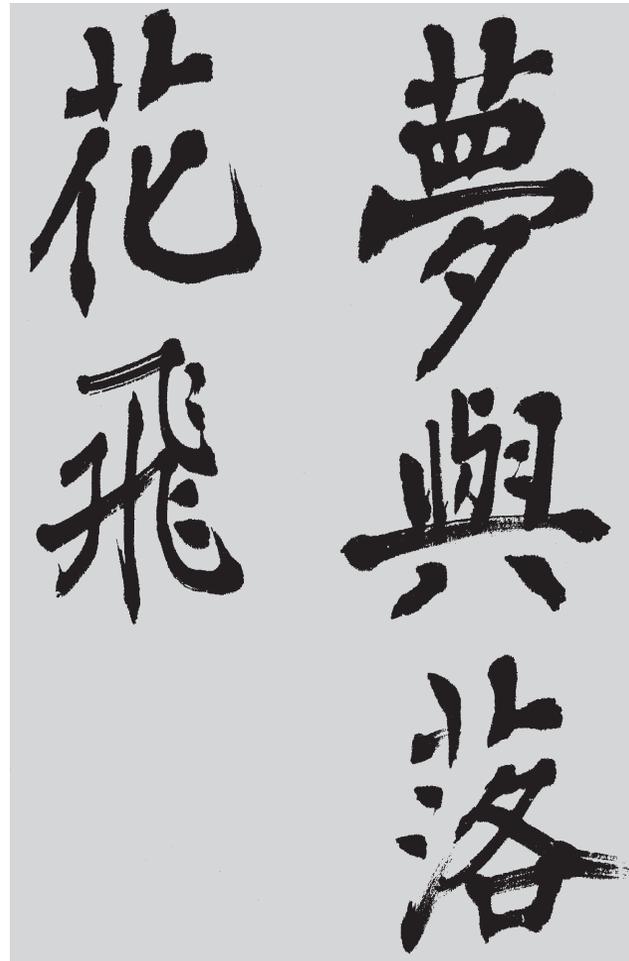
かな部課題参考 (四月二十二日締切)



(五月二十二日締切)

春せみや道をはさみて松林(虚子)

漢字部課題参考 (四月二十二日締切)



(五月二十二日締切)

百草競春華

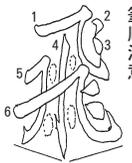
平岡華雪先生書

夢は落花と飛ぶ(陳文述)
訳：夢は、はかなく落花と共に飛ぶ。

〈草冠について〉

草かんむりの三文字ですが部首はちがう。夢は「夕部」、落・花が「艸部」。特に変化を意識せず、一画―二画―三画―四画と弾みの筆意により軽妙に用筆されたい。

筆順注意



平岡華雪先生書

春をしむ人や落花を行もどり(召波)
はるを志む人や落花を遊き毛とり

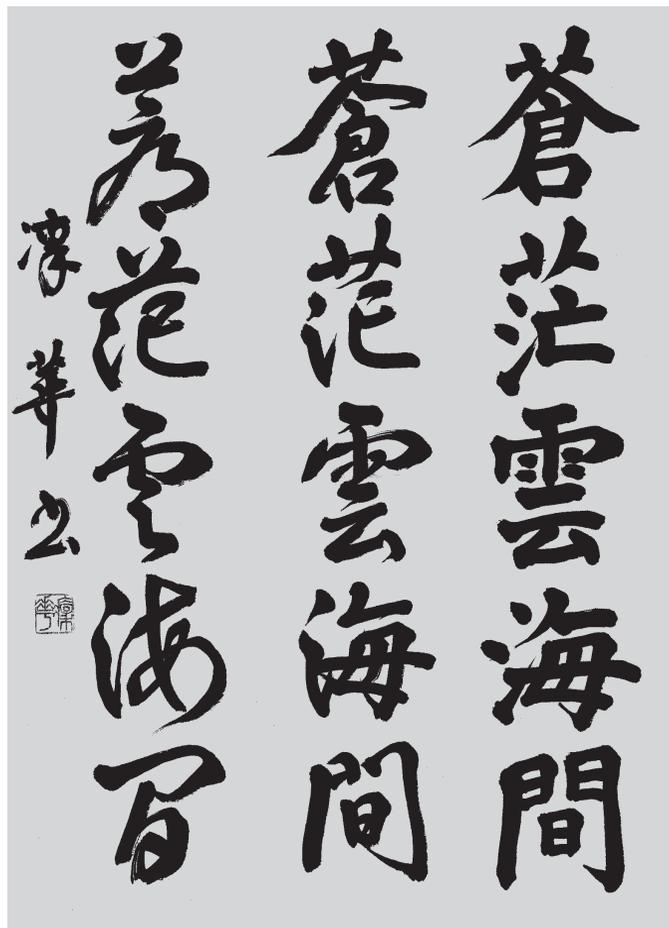
〈墨継ぎへの工夫を〉

華雪先生がよく取り組まれている一筆書きの手本。墨継ぎされる場合は「遊」か「毛」字が適切と思います。なお、連綿の区切りは、二字、三字で。「毛」も毛毛

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

①出品部門(例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (四月二十二日締切)



訳：蒼く暗く広がる雲海を照らします。

勝間 凜華 先生書

蒼茫雲海間 (李白)

蒼茫たり 雲海の間

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

漢字かな交じりの書課題参考 (四月二十二日締切)



水貝 潮華 先生書

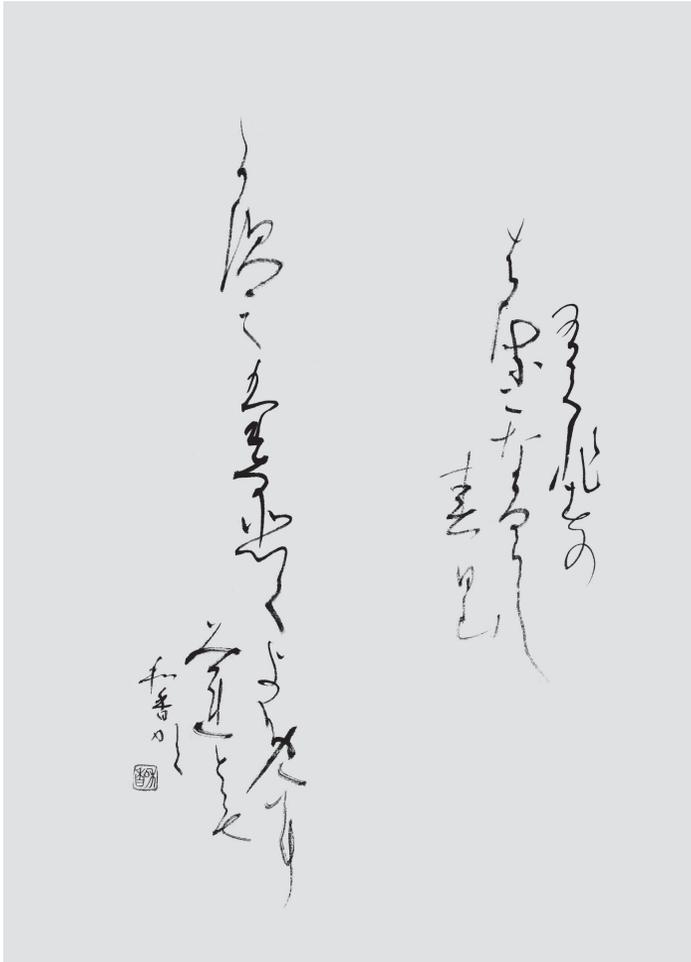
草萌えそむる径ながらこれを行き給へ

『梅林句屑』喜谷六花

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考

歌意：時節は今や鶯の鳴く春になるらしい。春日山に霞がたなびいている。夜目に見ても

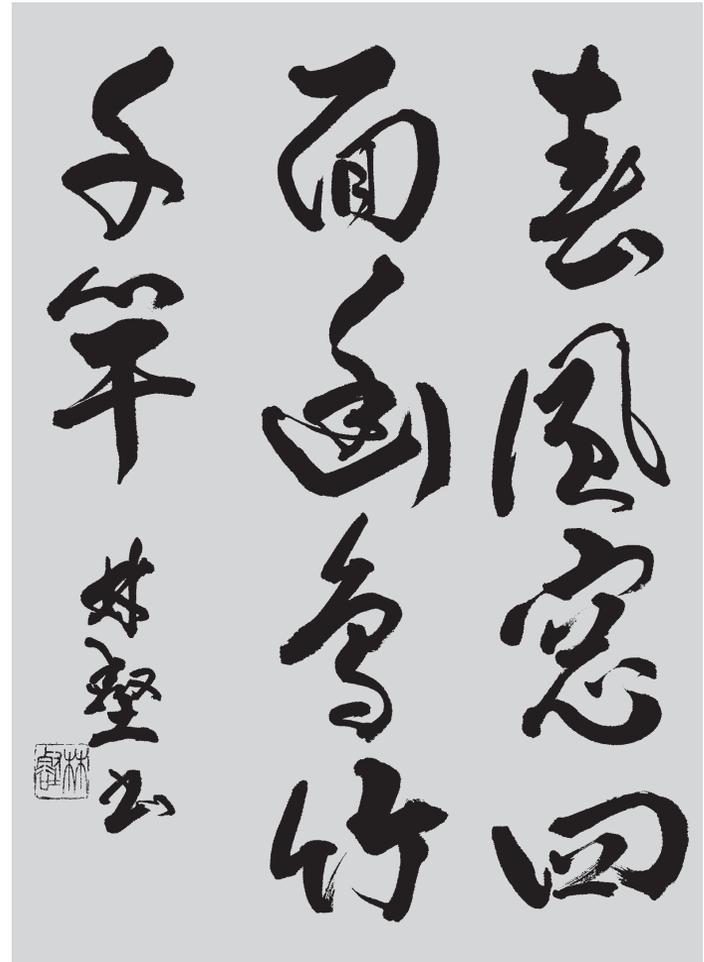


小林和香先生書

鶯うぐひすの春はるになるらし春日山霞かすがやまかすみたなびく夜目よめに見れども（万葉集 作者未詳）
有久非春うくひすの者流はる二なるらし春日山可須三堂かすがやまかすみ奈悲久なひくよ免耳めみ連れと毛

訳：春の風は窓の四方から吹き入り、ものしずかに鳥の鳴く処には多くの竹が生じている。

随意部参考



高山林壑先生書

春風窓四面しゅんぷうまどしめん 幽鳥竹千竿ゆうちようたけせんかん（湛汎）
春風窓四面、幽鳥竹千竿。

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

赤木典子先生書

石原春香先生書

課題 2 (初段格以下)

課題 1 (初段以上)

春はあけぼの。やうやう白くなり
ゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だち
たる雲のほそくたなびきたる。

雪の甲斐駒の峰々から残雪が
すっかり消えたと、朝毎の濃霧も
いつか青遠になり、やがて春霞が
高原の夕を染めはじめた。

課題 1 (初段以上)

雪の甲斐駒の峰々から残雪がすっかり消えたと、朝毎の濃霧もいつか間遠になり、やがて春霞が高原の夕を染めはじめた。

『春』 山本周五郎

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段格以下)

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

『枕草子』清少納言

＝ 研究部課題 ＝

(4月22日締切)

(課題) 古歌

うらうらに照^てれる春日^{はるび}に雲雀^{ひばり}あがり情^{こころかな}悲しも独^{ひと}りしおもへば

(出典) 万葉集 大伴家持^{おおとものやかもち}

▽注意

- (1) 半切タテ使用
- (2) 散らし自由
- (3) 変体がなを使用しても、漢字をかなに替えてもよい。
- (4) 落款は「文長書」と書き入れること。
- (5) 雅印は押さない(出品者の本名又は雅号を書き入れた作品は不可)。

▽出品要項

- (1) 資格―推薦、準推薦、推薦合格者(漢字・随意・かなのいずれかで推薦格以上であればよい。また同人、準同人も歓迎)
- (2) 締切―四月二十二日必着
- (3) 成績発表―書苑六月号誌上
- (4) 出品料―九四〇円同封
- (5) 出品方法
ア、出品は一人一点とする。
イ、出品票(私製)を作品の左下にぶら下げて貼付する。